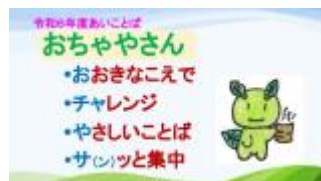


みどりの風



令和7年1月22日発行 No.16

校長 池田 誉

3学期がスタートしました

新しい年を迎え、令和7年(2025年)が始まりました。今年は、戦後80年、阪神・淡路大震災から30年、真庭市が発足してから20年など、いろいろな節目の年でもあります。そして何より、富原小学校創立150周年という記念すべき年です。数字を並べてみると、改めて150年という歳月の重みを感じます。この1年間、富原小学校の伝統を大切にしながら、富原の未来を担う人材を育てていく教育活動を進める年にしていきたいと思います。



凧あげを楽しむ1・2年生

学校では1年間まとめの3学期のスタートです。寒い季節ですが、子どもたちは元気いっぱいです。7日(火)の始業式では、児童に「何が起こるかわからない世の中だからこそ、一日一日を大切にがんばろう」という話をしました。50日ほどの短い3学期。卒業と各学年の修了というゴールに向かって着実に進んでいきたいと思います。

地域を盛り上げる力走～富原新春マラソン～

2日(木)に恒例の「富原新春マラソン」が開催されました。4年ぶりの開催だった昨年と比べ、参加者が大幅に増えて新春の運動場に活気があふれました。地元の人に加え、帰省された方もたくさん参加して、20名あまりの選手が2kmのコースで健脚を競いました。富原小の児童7人も出場し、大勢の方の声援を受けて力走を見せられました。富原には、正月に帰省して地域の方同士が顔を合わせる場があることがすばらしいと感じました。運営にも多くの方が携わり、地域を盛り上げようとする思いが伝わってきました。今年も地域のいろいろな行事に多くの児童や保護者の方が参加し、地域全体が盛り上がることを期待しています。



笑顔があふれた「とんど」

1月14日(火)に運動場で「とんど焼き」を行いました。

各地で行われる「とんど」ですが、30年ほど前には富原小学校でも行われていたそうです。自分たちで作ったお飾りや書き初めを焼いて健康・安全などを願うとともに、伝統的行事を通して地域の方と交流することを目的に、今年久しぶりに実施することになりました。

当日は、学校支援ボランティアの方、富原福祉のむらづくり推進委員の方が早くから準備をしてくださいました。薪や餅、餅を焼く道具なども提供していただき、児童が安全に楽しめるよう配慮してくださいました。

児童が家から持ってきたお飾りを薪やわらの間に置き、高学年児童がマッチを使って点火すると、勢いよく燃え上がりました。次に、書き初めを一人ずつ火ばさみを使って火の中に入れました。高く舞い上がると歓声が上がりました。そのあと竹の棒に吊るした餅を、一人ずつ火であぶって焼けるのを待ちました。ちょうどよい火加減で柔らかくなった餅を砂糖醤油をつけていただきました。「おいしい！」と大満足の子どもたち。伝統行事を通して、地域の方や友達と楽しい時間を過ごすことができました。ご協力くださった皆様ありがとうございました。



大切な命を守るには～地震に備える～

1月21日(火)に休み時間に地震が発生したという想定で、児童に事前の予告をせずに避難訓練を行いました。自分の命を自分で守る実践力が、どのくらい身についているかを確かめることがねらいです。

地震発生音が流れると、運動場で遊んでいた児童は、すぐに身をかがめて頭を保護する姿勢をとっていました。その後、声をかけ合いながら、運動場中央の避難場所に移動することができました。教室にいた児童も、机の下にもぐって身を守り、その後自分で外に避難することができました。

阪神・淡路大震災から30年。児童にも、大きな災害であったことや学校が避難所になったことなどを伝えました。地震は防げませんが、過去の災害からも学び、備えることで助かる確率は上がります。今後も、大切な命を自分で守る実践力を伸ばしていきたいと思えます。

この日は、真庭市の避難所開設訓練が体育館で行われ、市の職員の方と段ボールベッドの組立体験をしました。避難所で子どもたちが果たせる役割についても考える機会となりました。

